

「旭市復興計画」を策定しました……………	16
「東日本大震災一周年 千葉県・旭市合同追悼式」を開催……………	17
医療費の免除期間を延長……………	20

「心をひとつに」共に進もう 復興あさひ

特集

東日本大震災の記憶 復興へ、私たちは今……

(関連記事 2 ～ 15 ページ)



強い木になって！

旭市保安林記念植樹会

津波で大きな被害を受けた、海岸の保安林を再生しようと、豊畑小の3、4年生61人が、クロマツの植樹を行いました。北部林業事務所の職員から「保安林には津波の力を弱める働きもある」という説明を受けた子どもたちは、小雪の舞う寒空の下、クロマツの苗木を1本1本、丁寧に植えていきました。参加した女子児童は「津波が来ても倒れない、強い木になってもらいたい」と話していました。(2月16日／中谷里海岸)

復興へ、私たちは今……

震災から1年。今もまだ街のあちろこちろに残るその爪痕。

1月30日、旭市復興計画が策定され、いよいよ本格的に復興へと歩み始めた旭市——。
今、私たち一人一人が、もう一度この震災と向き合い、それぞれが考え、そして後世へと伝えていくことが必要ではないだろうか。



「東北地方太平洋沖地震」概要(気象庁)

発生日時	平成23年3月11日(金) 午後2時46分
震源地	三陸沖(北緯38度6.2分、東経142度51.6分)
震源の深さ	約24km
地震の規模	マグニチュード9.0(国内観測史上最大)
地震の種類	海溝型地震、逆断層型
本市の最大震度	5強



あの日……

経験したことのないような大きな揺れ

平成23年3月11日、午後2時46分、東北地方から関東にかけての東日本一帯を、突然、今まで経験したことのない大地震が襲った。
三陸沖を震源とするこの地震は、国内観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録。最大震度は、宮城県栗原市で震度7を観測した。
震源から約330km離れた本市でも、2度にわたり震度5強の揺れに見舞われ、その後もしばらく強い余震が続いた。この地震により市内の至る所で屋根瓦が落ち、建物は傾き、道路も大きくゆがみ、裂けた地面からは水と一緒に砂が噴き出ている場所も見られた。
電話回線の不通、停電、断水など、一時市内の生活機能は完全に麻痺してしまった。

【旭市の被害】(1月31日現在)

人的被害	死者13人、行方不明者2人
住宅被害	全壊336世帯、大規模半壊432世帯、半壊509世帯、一部損壊2,414世帯 合計3,691世帯(うち液状化被害768世帯)
津波による浸水面積	3.8 km ² (資料：県防災危機管理課)
液状化による土地被害	8.74 km ² (住宅地域4.74 km ² 、農地4.0 km ²)
崖崩れ	萬歳・長部・清和甲地区
ライフライン	水道：3月14日全地域送水開始、一部断水 4月19日完全復旧 電気：3月12日ほぼ復旧。14日計画停電実施、以降被災地のため除外



午後5時13分ごろ、飯岡漁港を襲う津波。さらに飯岡の街へと津波が向かう

しかし、この震災は、それだけでは終わらなかった――。



液状化による地盤沈下



昭和46年の台風25号により崩れた崖が再び崩落

旭市に被害をもたらした津波

第1波到達時刻	午後3時50分ごろ
最大波(推定)到達時刻	午後5時20分ごろ
最大津波高痕跡	7.6m 足川保安林土手頂上付近(資料:東大地震研究所調査結果) 7.6m 平松浜コウゴ牧場事務所建物(資料:県防災危機管理課)
津波最大到達距離痕跡	940m 井戸野浜付近(資料:県防災危機管理課)



矢指川を遡上する津波があふれ出し集落を襲った(矢指ヶ浦海岸)



第1章 被災の記憶

大津波の襲来

午後2時49分、九十九里沿岸にも津波警報が発表された。午後3時14分には大津波警報に切り替えられ、同時に防災行政無線からは、市内全域に避難勧告が出された。

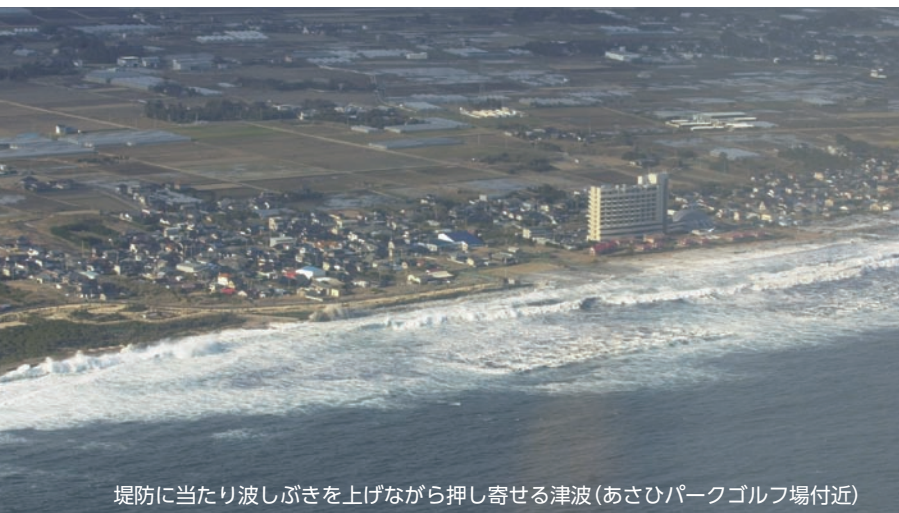
午後3時13分、銚子市に第1波の津波が到達。銚子地方気象台の巨大津波観測計は2・3mを観測した(資料:気象庁)。それから約37分後の午後3時50分ごろ、第1波と思われる大津波が旭市沿岸を襲う。一直線となった白波が、一気に堤防を乗り越え、押し寄せた。

近年、本市が経験した津波では、1960年のチリ地震で3・7m(飯岡)、2010年のチリ地震でも1・5m(飯岡)の津波が観測されている(資料:東大地震研究所)。しかし、どちらも波が堤防を越え、街に流れ込むことはなかった。

防災行政無線の通信記録によると、午後3時14分、大津波警報の発表と同時に1回目の避難勧告の放送がされ、それから午後4時44分まで、計13回にわたり、避難を呼び掛け続けていた。

それから35分後、午後5時19分に再び避難を呼び掛ける放送をした直後、地震発生から約2時間30分後の午後5時20分ごろ、最大波と思われる大津波が飯岡の街をのみ込んだ。

真つ黒い波が、高さ4・5mの堤防を乗り越え、集落へと押し寄せた。津波は、海岸付近の平屋を丸ごとのみ込み、威力を落とすことなく街の奥へ奥へと流れ込んでいった。がれきと一緒に海水が、建物の1階部分を突き抜けた。津波は堤防から約250m離れた、飯岡小(避難所)の校門手前数十メートルにまで到達(飯岡小津波報告)。波が引いた後も、街の中にはしばらく海水が残っていた。暗くなった街の中には、建物の2階や倒壊した建物の屋根の上で、身動きできずに救助を待つ人々の姿があった。



堤防に当たり波しぶきを上げながら押し寄せる津波(あさひパークゴルフ場付近)



いいおか荘前も一面波にのまれる



追い掛けられ足元まで迫る津波



車も船も全て海の中



真っ黒な波の塊が海匠漁協市場を襲う



堤防を乗り越え漁船へと津波が迫る



津波にもまれる漁船



1階部分は海中に沈んだ

あの日、会社から帰ってきた息子と手をつないで、一緒に避難しようとしていました。第1波で辺りがぬれていたの、息子を長靴に履き替えさせようと、げた箱に手を掛けた瞬間、背丈を超えるほどの真っ黒な津波が、玄関サッシを壊して家に入ってきました。つないでいた息子の手が離れ、自分も台所まで流されて、意識を失ってしまいました。

どれくらいだったか、気が付くと自分は仏壇を背にして座っていました。家の中はめちゃくちゃ。「は」として、再び息子の名を叫びましたが、やはり返事はありません。辺りは真っ暗で動くこともできず、とにかく大声で助けを呼びました。しばらくすると、その声に消防隊員が気付いて、助けに来てくれました。息子も奇跡的に別の場所で救助され、消防飯岡分署の2階で再会できました。

第1波のときは、玄関先がぬれた程度。「これで終わりだろう」と、これ以上の津波が来るとは思ってもいませんでした。



小野芳子さん
(横根)

第1波で
終わったと思いました

津波に破壊された街

市災害対策本部では、夜明けとともに市内の海岸地域を中心に被害状況の調査を始めた。するとそこには、目を疑うような、信じられない光景が広がっていた。

街は泥やがれきで埋め尽くされ、倒壊した家屋や泥にまみれた車が道路をふさぐ。その場にぼうぜんと立ちすくむ人、頭を抱える人。半ば諦め顔で、片付けを始める人――。「誰かいますかー」倒壊した家屋の奥に向かって、声を掛ける消防隊員。建物がなくなり、大きく開けた街のすぐ向こう側には、静かな海が広がっていた――。



翌日早朝、廃墟のような街を歩く

とにかく命があって良かった、それだけです



梅花すみ子さん
(横根)

飯岡の灯台まで何も持たずに、それこそ吹っ飛んで逃げました。夕方帰って来ようと思いましたが、途中、泥やがれきがいつぱいで、重なった車なんかもあって、到底歩いて戻れる状態じゃありませんでした。その日はそのまま、飯岡小学校へ泊まりました。

翌朝、明るくなってから、長靴を履いて、家に戻ってきました。そして、た何らかもなくなっていて、本当に地獄だと思いました。頭が真っ白、どこから手を付けていいか、2、3日は何もできませんでした。

片付けは親戚に手伝ってもらって、毎日泥んこになりながらやりました。1か月じゃ、終わらなかつた。家の1階は波が突き抜けて、基礎だけになってしまいました。一応修理はしたものの、砂が家中の隙間に入り込んで、今でも取り切れていません。今は何とか暮らしています。とにかく命があって良かった。それだけです。本当にもう、一生忘れられません。



激しく倒壊した家屋が目の前に広がる



一面泥に埋め尽くされた街



大量のがれきの中、片付けに没頭する女性



津波にフェンスをなぎ倒された自転車道



大量のがれきが幹線道路をふさぐ



打ち上げられた漁船の下で惨状を見つめる人々



なすすべもなく、頭を抱える人



津波が突き抜けていった家屋



がれきをかき分け、捜索をする消防隊員

家が傾き、 道路が波打った



道路が完全に陥没し、動けなくなったトラック。地面から噴き出る水

今回の震災による住宅被害3、691世帯のうち、768世帯（1月31日現在）は液状化現象によるものだった。液状化現象は、砂質土に富む地下水位の浅い地盤が、地震動のように繰り返し外からの力を受けることで、砂粒子の間にある水の圧力が上昇し、地下水と共に砂が地表に噴き出てくるという現象。市が平成18年に作成した「旭

市防災アセスメント調査」によると、市内には、液状化の危険度が高い砂質土に富む地質地が多く分布し、特に樁海干拓地の付近は、液状化の危険度が高いとされている。台地と平野の境に建つ住宅にも、液状化現象とみられる被害が多く見られた。また今回の液状化現象では、昔市内で砂鉄採取をした場所で、多くの被害が出ているという証言もあった。

インタビュー Interview



壊れた家をただぼうぜんと眺めていました

高野文子さん（椎名内）

1回目の地震の後、すぐに家に戻ってこようとしたのですが、液状化でいつもの道路がぼこぼこで通れなかったの、遠回りをして帰りました。遠くから家を見ると「あれ？ 斜めじゃないよね」と思って、近くまで来てみると、やっぱり「バキッ」と家が2つに割れたようになっていて「まさか……。夢じゃないよね」って思いました。みんなは津波で学校へ避難しようとしていましたが、私たちはそんな余裕もなく、ただぼうぜんと家を眺めていました。

家の中は、めちゃめちゃで手が付けられませんでした。家が真ん中から折れて、中から星が見える状態。見る影もありませんでした。

ショックで立ち直るのに、日数がかかりましたよね。普通の生活を送っているように見えますが、今でもちょっとした地震でおどおどしてしまいますし、後遺症はかなりありますね。



波打った道路を急ぐ消防車両



地面がゆがみ、家屋が折れ、傾く



地面に大きく亀裂が入った干潟中



約1mも隆起してしまった防火水槽



地面が沈下、地中から砂が噴き出た跡



割れたアスファルトに乗り上げ、動けなくなった軽自動車

砂鉄が採取された地域



砂鉄採掘現場

旭市の平野部は主に砂丘で形成され、地層の中には砂鉄を多く含んでいる。市内では明治から昭和40年代まで砂鉄採取が広く行われ、山林や農地を掘削し砂鉄を採取した後、埋め戻された。その後人口増大により宅地化が進んでいった（資料：『旭の風土と文化』旭市文書館、『飯岡町史』）。

インタビュー Interview



黒い水が噴水のように噴き出していました

遠山英夫さん(後草)

地震発生ときは、ちょうど孫(小2)が学校から帰ってくる時間だったので、地震の揺れが収まるのを待って、すぐ孫を迎えに行きました。帰ってくる途中に、2回目の大きな余震があって、近くの集水桝の辺りから水が1mくらい噴き上げました。最初は水の高さも量も少なかったのに、あれよあれよという間に噴水のように噴き出して、その水は真っ黒で30~40分くらい出続けていたと思います。その周りからも水が染み出してきて、近くの道路は、黒い水が大量に流れて、まるで川のようになっていました。揺れがある程度落ち着いたときに周りを見渡すと、道路が波打ったようになっていました。

家に戻ると、自宅が傾いて、ひび割れもすごかった。あのときは「液状化現象」というのが分かってなかったから「この水はどこから出てきたんだ!」と慌てました。



子どもからお年寄りまで多くのボランティアが力をくれた

第2章 支える心

人々の優しさが復旧を早めた

ボランティアによるがれき撤去

市は、3月11日付で「災害時応急工事等の協力に関する業務協定書」により、旭市建設業災害対策協力会へ協力を要請。翌12日には、道路上にあるがれきの撤去が開始された。また3月16日には、社会福祉協議会内に「旭市災害ボランティアセンター」が立ち上げられ、全国各地から計7、600人を超えるボランティアが、連日がれきの撤去や海砂の除去などを行った。地震発生から20日後の3月31日には、それまで道路や家の庭を埋め尽くしていた泥やがれきは、ほぼ片付けが済み、災害ボランティアセンターは閉鎖された。

災害ごみの処理

これまでに運び込まれた災害ごみは、合わせて110、661t（1月26日現在）。これは市が1年間で処理するごみの約4・6倍にも達する（平成22年度処理量24、124t）。これらのがれきは、海上中跡地、飯岡野球場、海上野球場、市営駐車場（三川浜）、野中（資材置き場）、飯岡漁港用地の、市内6か所の仮置き場に運ばれた。一時山積みになっていた災害ごみは、4月11日以降分別を始め、5月から処理業者が搬出・処理を行った。今月中にはほぼごみの分別が終わり、来年度5月下旬には各仮置き場（一部を除く）の現状復帰も終了する予定である。



重機を用いた排水溝の泥さらい



山積みされた災害ごみ（飯岡野球場）

インタビュー Interview



地元に住む人として、
自分も何かしたかった

たけし
佐久間毅之さん(鎌数)

ボランティアへ行こう、と思ったのは「地元の災害だから、地元に住む人として自分も何かしたい」という気持ちからです。

ボランティアセンターでは、下永井地区にある1軒の家へ派遣されました。辺りはものすごい状態で、家の窓には津波の跡も残っていました。その家では、床下に潜り、一面に堆積している海砂をかき出す作業をしました。とにかく、臭いがすごかったのを思い出します。

自分は、食料と水・スコップ2本を持って、長靴を履いて行きました。革製の手袋をしていったのは正解だったと思います。軍手では、小さなくぎや鉄さびが貫通してしまいますので……。あと軒下に潜り込むときには、ヘルメットがあれば良かったと思いました。

ボランティアに参加して本当に良かったです。もしあのとき何もせずにいたら、自分は今でも後悔していたんじゃないかと思います。



家屋の中から荷物を運び出すボランティア



海水や泥を丁寧に洗い流す



インタビュー Interview



本当にボランティアの
皆さんに助けられました

なみかわおさむ
瀧川理・和子さん(横根)

家は店を営んでいましたが、津波で全壊。家の中も、畳やらたんすやらがみんな浮き上がって、泥やがれきですごい状況でした。

家の片付けは、避難所から通いながらやりました。ボランティアをお願いして、3月の末までに、延べ600人くらいのボランティアが片付けを手伝ってくれたと思います。主に家や蔵の中の物を運び出して処理したり、泥をかき出して運んだり。ボランティアの人は本当によく働いてくれて、何かを頼んでも、すぐに一生懸命やってくれました。誰一人嫌な顔一つしません。本当にあの姿勢には感心しました。

自分たちだけでは、途方に暮れて手が付けられなかったと思いますし、ボランティアがいなかったら、これだけ早く街も片付かなかったでしょう。本当に皆さんに助けられました。



砂をかき出したり建物の片付けをしたり、ボランティア活動は多岐にわたる

不自由な暮らしを 優しい気持ちで支えた



薄暗い体育館で不安に耐えながら朝を待つ避難者



横綱白鵬関など幕内力士がみんなを励まし、避難者にも笑顔が戻る

今回の震災では、津波や液状化被害などで家を失った多くの人が、長い避難所生活を余儀なくされた。

地震発生後、市は施設10か所に避難所を開設。防災行政無線で避難を呼び掛けた。3月11日の避難者は一時3、000人を超え、避難した人たちは、市が備蓄していたアルファ米や水、災害協定により提供されたパンや果物などを分け合い空腹をしのいだ。薄暗い避難所で、配布された毛布にくるまり、恐怖と寒さに震えながら、じっと夜明けを待っていた。

翌日以降、状況が落ち着いてくるにつれ、避難者も自宅や親類の家など、徐々に別の場所へと移っていった。3月14日には、避難所を飯岡小、飯岡福祉センター、海上公民館、総合体育館サブアリーナの4か所に集約。市では、職員を振り分け、通常の業務を行いな

がら、24時間体制で避難所の運営に当たった。

避難所には、全国各地から食品や日用品、衣類などが次々に届き、被災者の生活を支援。また多くのボランティアが、避難所で炊き出しを行い、温かい食事を提供してくれた。ときには普段テレビで見ることのできない、多くの著名人が慰問に訪れ、さまざまなパフォーマン스로被災者を元気づけた。たくさんの方の優しい心が、下向きになりそうな避難者の心を支え続けていた。

5月には待望の仮設住宅が、旭と飯岡地域の2か所に完成。5月11日に旭、18日には飯岡の仮設住宅で鍵の引き渡しが行われ、200戸に165世帯が移り住んでいった。

震災から72日後の5月21日、全ての避難所が閉鎖された。



温かい励ましのお言葉を掛けられる天皇皇后両陛下



午前4時、投光器の明かりだけを頼りに、避難者のおにぎりを作る



海外からの炊き出しの支援も



保健師や看護師が避難所に常駐し避難者の健康管理を行った



自衛隊による給水活動



新たな生活の始まり、食器類を並べ笑顔の男性



飯岡と旭に計200戸の仮設住宅が完成



みんなが触れ合い、励ましと笑顔を届けてくれた

飯岡小の避難所に夫婦で居ました。最初は飯岡地域の人が、全員避難してきたのかと思うほど、大勢の人が居ましたが、3日後くらいから校舎を移動し、地区ごとに教室を分けて、暮らすようになりました。

避難所となっていた教室は特に寒くはなく、食事もう食あったので助かりました。津波が来て、家がなくなっただけで、飯岡小という避難所があって、本当に救われました。

避難所では、地域の人や友達と地震や津波の話をよくしていました。話していると気が紛れましたが、それでも、津波の夢を見ることはたびたびあって……。もし夫婦2人きりで、どこかに行っていたら、ものすごくストレスがたまっていたと思います。

避難所には、慰問にもたくさん来てくれて、炊き出しは特にありがたかった。いろいろ励ましてくれて、津波や地震以外の話題もできるし、ありがたかったです。



磯村憲一さん
(飯岡)

避難所があった
救われました

インタビュー Interview

温かい真心が 勇気と感動を与えた

義援金と応援メッセージ

旭市には、全国から、また世界中から多くの義援金が寄せられた。2月8日現在、旭市への災害義援金は4億7,173万1,786円。5月と7月の2度にわたり、計12億2,245万5,000円(内市からの義援金3億5,644万5,000円)が被災者に配分された。市では、2月13日の義援金配分委員会で今年の9月30日まで、義援金の受付期間を延長することを決

めた。

また旭市には、世界中から温かい応援メッセージや励ましの手紙などが届けられた。

「震災に負けずがんばってください」「また遊びに行きたいです」――。

避難所や市役所本庁舎には、たくさんのメッセージが張り出され、被災者だけでなく、それを目にした多くの市民に、勇気と感動を与えた。

がんばって!!

あさひしのみなさんへ
じしんがこわかったですね。からだに気をつけてください。

Our Prayers are
with our Japanese
Friends! Be Strong!

大変なことがたくさんあると
思うですが 明日に向かい、
がんばって下さい。
私たちもできることはやり出す
ので 応援しています。

僕たちも精一杯
応援します。一秒でも早く
復興することを
祈っています。

“希望”を“すてず”に!!

被災者皆様へ
暗夜も必ず明るる朝が訪れます
大変なことは思いますが頑張り下さい。
必ずです。何かの節役にお目撃し
ます。



Stay Strong - know that you are
not alone and are in our prayers.

つながろうこの町で

飯岡海岸にある海岸護岸の竣工碑。

津波にのまれながらも、壊れることなく力強く立っているこのアーチ型のモニュメントの上には、石を積む2人の少年の像がある。

長年、海岸の侵食に苦しめられていた飯岡地域の人々。昭和の初期、大人たちの

海との戦いを見てきた2人の少年が、海岸に石を積んで侵食を防ぐことを思い立ち、毎

日海岸に打ち寄せられた飯岡石を一つずつ積み上げていった。やがてその行動が全校生徒に広まり、学校ぐるみの運動になる。そして「我らの波止」という小高い石の山を築いた。子どもたちの行動と地域の熱意がやがて国をも動かしていった――。

記念碑には、そんなエピソードがつづられている。

一つの小さな力が人々を動かし、そして町を救った。

幾度となく繰り返されてきた、海との闘い。そのたびに立ち上がり、共存を望んだ先人たち。

私たちは今、再び自然の猛威にさらされ、そして立ち上がろうとしている。

つながろうこの町で

伝えよう子どもたちの笑顔のために――。

○写真提供(敬称略)

遠藤脩一

尾形信男

佐久間作衛

早川正晃

渡辺博文

海上自衛隊館山航空基地隊

旭市社会福祉協議会

「旭市復興計画」を策定しました

市ではこれまで、被災地の復旧と被災者の生活再建を第一に、さまざまな事業に取り組んできました。そして今回、市民一人一人が夢と希望を持ち、さらなる市民生活の発展を目指していけるよう「旭市復興計画」を策定しました。今後はこの計画に基づき、市民と行政が一体となって、みんなが誇りの持てる、安全・安心な町を目指します。

※この計画の全文は、市ホームページのほか、市役所、各支所、公民館などの市の施設や、仮設住宅の集会所で見ることができます。

（復興計画概要）

計画の期間／平成23～27年度（5年間）

※復興の局面や社会情勢の変化に応じて必要な見直しを行います。

①被災者の生活再建

- 被災者の住宅再建支援
- 各種支援金の交付
- 仮設住宅の提供
- 住宅の確保や市営住宅への入居
- 被災者の生活支援
- 災害義援金などの支給
- 医療機関受診料の免除
- 要支援者に対する生活再建支援
- 高齢者などの身体機能の悪化防止
- 一人世帯などの買い物支援
- 税や公共料金の軽減
- 国保税、固定資産税、都市計画税、介護保険料の減免
- 被災者の心身のケア
- 仮設住宅などの家庭訪問や健康相談

②地域経済の再興

- 観光、交流拠点の復旧・整備
- 消波ブロックや離岸堤の修復
- 「道の駅」の設置
- 震災展示施設の設置や被災現場の保存
- 刑部岬展望館からの夜景の復活
- 観光、交流イベントの実施
- 七夕市民まつりのさらなる充実
- 真夏の祭典の復活や新たな復興イベントによる「復興あさひ」の発信
- 海水浴場の復旧と再開
- 商工業の再興支援
- 制度資金を利用した中小企業事業者に對する利子補給
- 復興のシンボルとなる旭市独自の特産

③都市基盤の再生

- 入所児童や保護者などの心のケア
- 生活習慣病の予防・改善
- 雇用対策の強化
- 失業者に臨時的な就労の場を提供
- 求人・求職情報などの提供
- 農業現場での雇用の確保、拡大
- 子どもの養育・就学に関する支援
- 保育料の減免や児童・生徒の就学援助
- 品（土産物）の開発と、商業の活性化
- 農水産業の再興支援
- 制度資金を利用した農業者・漁業者などに対する利子補給
- 原発事故の損害賠償請求の手続き
- 農水産業のブランド化
- ブランドイメージ回復のPR活動
- 農水産物検査体制を充実し、産地のブランド力の向上を促進
- 消費者と生産者の信頼関係を構築
- 公共施設・社会生活基盤の復旧・整備
- 被害を受けた道路の復旧
- 避難路となる国、県、市道の整備
- 災害廃棄物の適正処理
- 関係機関と協力し適正に処理
- 住宅耐震化の促進
- 木造住宅の耐震診断や耐震改修費用の一部補助
- 秩序ある土地利用
- 市内全域を都市計画区域に指定することを視野に入れた、秩序ある土地利用の促進
- 公共用地を中心に境界測量を実施
- 文教福祉施設の復旧・整備
- 飯岡中央保育所と三川保育所を統合
- 小中学校施設の大規模改造事業
- 飯岡中学校を内陸部に移転し、地域の防災拠点としての機能を強化
- 地域公共交通の充実
- コミュニティバス運行による地域間の

旭市の復興

復興の目標

- 1, 夢と誇りの持てる暮らしの創造
- 2, 災害をバネにした地域力の活性化
- 3, 安全・安心な暮らしの確保
- 4, 災害に強いまちづくりの実現

重点プロジェクト

- 1, 複合的な津波対策の推進 ～減災の考え方に基づく総合的な防災まちづくり～
- 2, 農水産業、商工業、観光業の復興 ～バランスの取れた産業復興による活力のあるまちづくり～

4つの基本方針に基づく復興施策

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|--------------|
| ① 被災者の生活再建 | ② 地域経済の再興 | ③ 都市基盤の再生 | ④ 災害に強い地域づくり |
|------------|-----------|-----------|--------------|

交流と福祉の増進

④災害に強い地域づくり

(1)津波・液状化対策

- 津波対策のため、国・県と共に人工盛り土を利用した海岸減災林を整備
- 一時的な避難場所として中高層建造物を「津波避難ビル」に指定
- 津波避難タワーの設置
- 国、県と連携した、液状化被害の調査研究と公表

(2)防災体制の整備

- 震災を踏まえた防災計画の見直し
- ほかの自治体との連携強化

(3)災害時の情報伝達手段の確立

- 避難指示など、防災行政無線による最も効果的な伝達方法の確立

- 要援護者の台帳整備、個別の避難支援プランの策定

- 継続的な放射線量の測定と、正確な情報公開

(4)防災拠点の整備

- 非常用食料などの計画的な整備
- ライフラインがストップした場合に対応できる炊き出し設備の充実
- 避難所などに設置してある防災井戸の順次増設

(5)避難場所や避難経路の情報提供

- ハザードマップの修正と公表
- 避難場所や避難経路を分かりやすく明示した看板や道路の路面表示の整備

(6)防災訓練・防災教育

- 津波避難訓練の定期的な実施
- 児童・生徒を対象とした避難訓練など

- の防災教育を充実

- 津波体験の継承と連帯意識の醸成

- 自主防災組織の育成

- 地域の自主防災組織を育成

- 地域の防災訓練や避難訓練への参加

- 省エネルギー・太陽光発電などの推進

- 住宅用太陽光発電システムを設置する個人に、設置費用の一部を助成

- 新時代を見据えたクリーンエネルギー・省エネルギーの導入

- 地域コミュニティの強化

- 地区集会施設の復旧に係る経費の一部を助成

- 地域単位で、子どもから高齢者までが参加し、絆を深める取り組みを推進

- ボランティア・NPO活動の充実

- まちづくり活動支援事業により、市民が自主的かつ継続的に取り組む地域課題解決のための事業を支援

- 災害時に対応できるボランティア組織の整備とボランティア団体の連携強化

復興計画地域説明会

開催日／4月15日(日)

【場所・時間】

- 飯岡保健センター多目的ホール／午前10時～

- 矢指小学校体育館／午後2時～

問い合わせ先

企画政策課企画調整班

☎ 62・5307

「東日本大震災一周年 千葉県・旭市合同追悼式」を開催

このたびの震災で犠牲になられた方々を追悼する式典です。

日時／3月11日(日) 午後2時30分～

場所／いいおかユートピアセンター2階潮騒ホール

※服装は自由、誰でも参列できます。直接会場へ来てください。

※式典終了後、一般参列者による献花を行います。

会場へは無料送迎バスで

〈行き〉

- ①県立東部図書館東側駐車場発／午後2時

- ②旭市飯岡保健センター駐車場発／午後2時10分

〈帰り〉

- いいおかユートピアセンター発／午後4時～

※右記①②まで運行します。

一斉黙とうを行います

3月11日(日) 午後2時46分から1分間一斉黙とうを行います。

※当日は、防災行政無線により黙とうのサイレンを鳴らします。

問い合わせ先

総務課地域安全班

☎ 62・5311

インタビュー

復興へ 具体性のある計画

旭市復興計画検討委員会委員長
千葉科学大学教授

船倉武夫さん

時間をかけて作ったことで、逆に冷静な目でいろんなことが見えてきたのではないのでしょうか。児童・生徒の作文という形で、将来主役になってくれる子どもの意見が多少なりとも取り入れることができたのは、良かったと思います。被災者へのアンケートも2回行うなど、広く意見を取り入れることができたと思います。委員たちの体験したこと、見聞きしたことなどが取り入れられ、具体性もあり、とてもメリハリのあるものになりました。今、何が大事であるかを、委員みんなが考え、審議する中でも学んでいたのだと思います。「街が復興するにはどうしたらよいのか」市民は、分らずにいます。この中には「やりたい、やらなければいけない」ことが入っているはず。ぜひこの計画に目を通していただき、これを種にして、皆さんでいろいろな意見を出し合いながら、復興という一つの目標に向かって進んでほしいと思います。



スローガン「津波を乗り越え 復興への道」を掲げた、しおさいマラソン大会が2月5日に開催され、史上最多の3,461人が健脚を競い合いました。

東日本大震災の影響による「コース変更」「いいおか荘での温泉入浴中止」など、紆余曲折を経て開催された今大会。家屋の解体などでさら地も目立つコースを、ランナーは、家族や地元の人たちの声援を受けながら、駆け抜けていきました。



- ①笑顔でスタート！（10kmの部）
 ②新コースの旭地域。富浦地区では、キュウリやミニトマト、おはやしでランナーを出迎えた
 ③かつては家があった前を走るランナー

復興への祈りを込めて恒例のマラソン

第23回旭市飯岡しおさいマラソン大会

種目別10位以内(市内在住者)

※敬称略

種目	順位	氏名	タイム
2 km	3	花澤淳・歩武	7'33"
	9	江波戸毅・懂音	7'47"
	10	大森茂樹・陸登	7'53"
3 km	5	加藤真太郎	10'53"
	6	大木奈美	12'23"
5 km	2	實川久夢音	16'15"
	3	中原陸斗	16'22"
	5	多田真一郎	16'42"
	8	大橋拓実	17'02"
	3	伊東重和	17'44"
	5	花澤淳	17'56"
	7	岩崎良雄	18'43"
	5	椿光喜	22'00"
	4	大木亜美	18'58"
	7	向後由実	19'09"
	9	鈴木美稀	20'04"

種目	順位	氏名	タイム
5 km	1	畔蒜愛	20'48"
	6	山口由香子	22'51"
	10	佐久間友美	24'05"
	4	加瀬厚子	23'33"
	7	疋田紀子	25'12"
10 km	10	高木恵	25'25"
	5	畑上陸	34'06"
	10	石毛康之	41'21"
	7	飯嶋敏夫	45'12"
	9	渡邊真理子	44'26"
	6	鈴木なえ子	45'29"
	10	清水美智子	48'08"
	6	石橋美規	1° 20'13"
	10	宮内憲文	1° 24'50"
	1	宮崎めぐみ ※5連覇	1° 21'09"
ハーフ	9	天野かおり	1° 40'44"
	1	神田知恵子 ※2連覇	1° 33'30"

1
21

トップ選手からの指導に熱い視線



熱血指導に真剣なまなざし

バドミントンの日本代表選手も所属する、NTT東日本チームを招いたバドミントン教室が、総合体育館で開かれました。市内外の小学生から高校生まで約160人が参加。憧れのトップ選手からの指導だけあって、参加者はアドバイスを受けると、真剣な表情で「はい!」と答えていました。

1
26

生き物調査で環境問題を考える



劇で発表する干潟小の児童たち

環境にやさしい循環型農業を推進するサンライズプランの冬の交流会が、干潟公民館で開催されました。市内の農地で、生き物調査を行った滝郷小と干潟小の4年生は「身近に多くの草花や動物が居て、良い環境だと分かった」などと、パネルや劇で調査結果を発表しました。

2
2

がん検診の大切さを知る



熱心に耳を傾ける参加者たち

飯岡保健センターで、健康づくり講演会が行われました。講演を行った、日本産婦人科学会認定医師の河西とくぞうさんは、子宮頸がんについて、スクリーンを使って分かりやすく説明し、がん検診の有効性を繰り返し訴えていました。

2
11

日ごろの鍛錬の成果を発揮!



勝負は一瞬

旭タッチヤング剣道大会が、総合体育館で行われました。市内外から多くの参加があり、熱気のこもった会場には、一瞬に勝負を懸ける剣士たちの気合の入った掛け声と、仲間たちから送られる声援が響いていました。

第7回旭市子ども会書初め展

元気いっぱいの書き初めが大集合



目当ての作品を見つけ、喜ぶ親子

新年恒例の書き初め展。今年は市内33の子ども会から375点が寄せられ、1月22日～28日に市民会館で展示されました。訪れた親子は「入賞作品はやっぱりうまい。バランスが良く元気がある」と話していました。特別賞の受賞者は次のとおり。※敬称略、()は子ども会名。
市長賞／浅野亜美(新町下一・下二) **市議会議長賞**／遠藤江里子(新町下一・下二) **教育長賞**／高木彩加(新田) **文化協会長賞**／加瀬航平(宿天神) **青少年相談員会長賞**／野口晴生(後草) **市子連会長賞**／佐藤和杏(新川)

なかぐすく

中城村・旭市姉妹都市提携式および児童歓迎交流会

より強い絆に 子どもたちの再会も



提携書を手に握手を交わす浜田村長(左)と明智市長(右)

友好市村として交流してきた沖縄県中城村の浜田京介村長をはじめとする関係者が2月15日、旭市を訪れ姉妹都市提携を結びました。浜田村長は「絆を深め、子どもたちが大人になっても協力し合えるようになれば」と話しました。

また一緒に訪れた同村の児童12人が、昨夏沖縄で親交を深めた中央小、琴田小、干潟小の児童20人と再会、交流しました。



すごろくを楽しむ児童たち(干潟小)

農業者戸別所得補償制度

食と地域の再生に向け所得補償を実施

農業者個別所得補償制度は、販売価格が生産費を長期的に下回っている作物を対象に、その差額を交付する制度です。

これにより、農業経営の安定と国内生産力を確保し、食料自給率の向上、環境の保全、美しい景観など、農業の多面的機能の維持を図ります。

対象作物ごとの支援策

米(主食用米)

生産数量目標(生産調整)に



県下屈指の穀倉地帯「干潟八万石」

従って作付けし、目標を達成すると、交付金が支払われます。

対象／主食用米を販売目的に生産(耕作)する農家、集落営農組織

交付対象面積／主食用米の作付面積から自家消費米相当として、一律10aを除いた面積

交付単価(10a当たり)／15、000円＋変動部分

※当年産の販売価格が、標準的な販売価格を下回った場合に、差額を変動部分として交付します。

●戦略作物(麦・大豆・米粉用米・飼料用米・加工用米など)

生産数量目標の達成にかかわらず、作付けした面積に対して交付金が支払われます。

対象／水田で、対象作物を販売目的に生産(耕作)する農家、集落営農組織

交付単価(10a当たり)／●麦・大豆・飼料作物：35、000円 ●米粉用米・飼料用米・ホ

ルクロップサイレージ用稲：80、000円 ●そば・なたね・加工用米：20、000円 ※二毛作助成や耕畜連携助成、産地資金などもあります。

●畑作物(麦・大豆・てん菜・でん粉原材料ばれいしょ・そば・なたね)

生産数量目標に従って作付けし、目標を達成すると、交付金が支払われます。

対象／水田や畑で、対象作物を販売目的に生産(耕作)する農家、集落営農組織

交付単価／「数量払」と「面積払」の併用

加算措置も

規模拡大加算や再生利用加算、集落営農の法人化支援などがあります。

申請が必要

この制度の交付金を受けるには、事前に申請する必要があります。

農家や集落営農組織には、4月に申請書を郵送します。

申請期限／6月30日(土)

※この制度のくわしい内容は、農林水産省のホームページ

(<http://www.maff.go.jp/>)

で見ることができます。

を済ませてください。

取得窓口

小型特殊自動車・原動機付自転車(125cc以下)／市税務課

41 ※問い合わせのみ

3月30日(金)までに

軽自動車の変更手続き

軽自動車税は、4月1日現在の所有者に対し課税されます。

所有者が変わった場合や、使用していない車両を持っている人は、3月30日までに変更手続き

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

軽自動車検査協会千葉事務所(☎043・245・0163)

被災者支援情報

国民健康保険、後期高齢者医療制度加入者の

医療費の免除期間を延長

東日本大震災で被災した人の医療費の自己負担(一部負担金)が免除になる、免除証明書の有効期限が、9月30日(日)まで延長になりました。新しい免除証明書を郵送しましたので、まだ届いていない人は問い合わせてください。

なお入院時の食事代などの免除期間は、延長されていません。

ほかの医療保険に加入している人は、保険者に確認してください。

国保年金課国民健康保険班(☎62-5331)、高齢者医療年金班(☎62-5882)

ストップ!
地球温暖化

「旭市地球温暖化対策 推進実行計画」

進捗状況を公表します

市では、市役所や中央病院の事務および事業に関し、温室効果ガスの排出などの削減を行うことで、地球温暖化対策の推進を図る旭市地球温暖化対策推進実行計画を策定しています。

平成18年度を基準年とし、平成20～24年度までの5年間で目標達成を図ります。

温室効果ガス排出量状況

	削減目標	排出量(kg-CO ₂)				平成22年度削減率 基準年度からの増減(%)
		平成18年度 (基準年度)	平成24年度 (削減目標)	平成21年度	平成22年度	
本庁など	7.0%	9,152,893	8,512,190	9,182,933	9,134,526	-0.20
旭中央病院	2.5%	16,869,932	16,448,184	15,815,851	16,160,083	-4.21
全体	-	26,022,825	24,960,374	24,998,784	25,294,609	-2.80

全体での削減率は、基準年度と比較して2.80%減少しました。

本庁などは基準年度と比較し、0.20%の減少でした。削減率が低いのは、設備更新などで機器の燃料が重油やガスから電気へと変わり、温室効果ガス排出要因の大半を占める電気使用量が、基準年度を上回ったのが要因に挙げられます。旭中央病院は、昨年度より増加しましたが、基準年度と比較して4.21%減少し目標を達成しています。

目標達成のため、今後も節電をはじめ、温室効果ガスの削減に向けた取り組みを実施していきます。

環境課環境政策班(☎62-5328)

期限は3月15日(木)

市県民税・所得税の申告

市県民税・所得税の申告期限は、3月15日です。期限が迫ると、窓口は大変混み合います。

早めに申告を済ませましょう。

なお各支所での受け付けは、指定日のみとなりましたので注意してください。

受付日

市役所本庁特設会場／3月1日(木)～15日(木)

海上支所1階相談室／3月1日(木)～5日(月)

飯岡支所1階旧税務室／3月6日(火)～9日(金)

干潟支所1階会議室／3月12日(月)～15日(木)

※土・日曜日を除く。

受付時間／午前8時30分～正午、午後1時～5時

経費などの集計は事前に

経費や医療費などは集計を済ませてきてください。集計が済んでいない人は、集計が終わるまで順番を待つことがあります。

次の書類を忘れずに

国民健康保険税、国民年金・生命保険などの保険料、医療費などは、所得控除の対象です。

平成23年中の領収書や支払証明書などを持参してください。

また事業のために使用する土地や建物などの固定資産税(都市計画税)は、必要経費となります。固定資産税納税通知書を持参してください。

市税務課課税班(☎62・5321)、鉾子税務署(☎0479・22・1571)

婚活応援セミナー

「いまどきの結婚事情と 婚活のススメ」を開催

婚活は今じゃ当たり前！ 社会全体の課題として、みんなで考えてみませんか。

日時／3月18日(日) 午後1時30分～(受け付けは午後1時～) 場所／東総文化会館小ホール 入場料／無料

内容／NPO法人花婿学校代表 大橋清朗さんによる講話

旭市出合いコンシェルジュ事務局(市民生活課市民生活支援班内・☎62・5396)

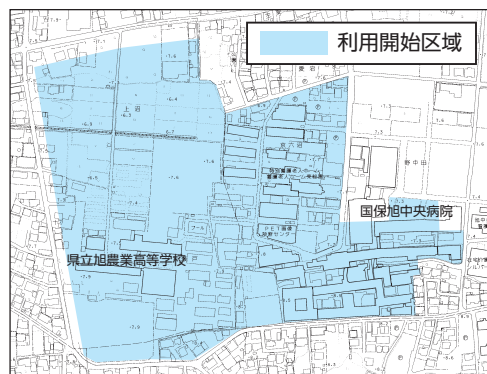


大橋清朗さん

公共下水道 16・9 haが新たに利用 開始

3月30日(金)から、口地区の一部16・9 haの区域で、新たに利用が始まります。

下水道を利用する皆さんへ
利用が始まる区域内の皆さん



は、利用開始日(3月30日)から1年以内に下水道に接続するための排水設備工事をしてください。工事は、市の指定した「下水道排水設備指定工事店」に申し込んでください。

排水設備工事の補助金・利子補給制度

排水設備工事の費用は自己負担ですが、皆さんの負担を減らすため、市では補助金および利子補給の制度を設けています。

受益者負担金と下水道使用料
利用が始まる区域内の皆さんは、受益者負担金を納めてください。また下水道に接続し使用を始めると、使用料が掛かります。

下水道課管理班(☎62・5357)

文化情報ナビ

文化施設からのお知らせ
※入場料を記載していない催し物は無料です。



東総文化会館

3月の休館日 5日、12日、19日、26日

第7回スプリングコンサート

日時／3月25日(日) 開場：午後1時 開演：午後1時30分 終演：午後4時(予定)

内容／あさひ少年少女合唱団恒例の春のコンサート

園生涯学習課文化振興班(☎55-5728)



干潟公民館

子ども劇場「ライオンとネズミ」

日時／3月4日(日) 開場：午後1時30分 開演：午後2時

内容／(1部)キャラクターによるマジック&バルーンバラエティーショー (2部)ぬいぐるみ人形劇「ライオンとネズミ」

園干潟公民館(☎68-3111)



海上公民館

絵本の読み聞かせ会

日時／3月10日(土) 午後2時～2時30分

子ども映画会

日時／3月10日(土) 午後2時30分～3時30分

上映内容／アヒルのペックルのアラジンの魔法のランプ、アヒルのペックルのシンドバットの冒険

園海上公民館(☎55-2566)



海上ふれあい館(JR飯岡駅)

休館日 毎週月曜日・祝日

南隆一絵画作品展

期間／3月1日(木)～15日(木)

石川実彫刻作品展

期間／3月16日(金)～31日(土)

〈共通事項〉

時間／午前9時～午後5時(最終日は、午後3時まで)

園海上ふれあい館(☎55-5115)



まちかどギャラリー「銀座」

あさひフォトクラブ写真展

期間／3月19日(月)～25日(日)

時間／午前10時～午後5時

園あさひフォトクラブ・米本(☎62-3379)

※イベントがない日でも作品を展示しています。まちかどギャラリー「銀座」の使用に関する問い合わせは、商工観光課商業振興班(☎62-5874)へ。



市図書館だより

園市図書館(☎62-2560)

開館時間／火～金曜日…午前9時～午後6時 土・日曜日…午前9時～午後5時

今月の休館日／15日(木)、20日(火・祝)、毎週月曜日

今月の一冊

らしん「羅針」

にれ 楡周平 著(文藝春秋)

昭和37年。船舶会社に勤務する関本源蔵は、息子との関係に悩みながら三等機関士として南氷洋に向かう。途中、かつてない大しけに襲われた源蔵は、苦難の状況下で船員たちともがきながらも関係を確かにしていく。しかし、脳裏にはサイパン引き揚げ時の父との別れ、潜水艦に撃沈されたときのことなどが思い出されるのだった……。

労働と生きることの意味を問う作品。



新着図書

- 図説天皇家のしきたり案内 (『皇室の20世紀』編集部)
- 体制維新－大阪都 (橋下徹)
- 私が弁護士になるまで (菊間千乃)
- 科学嫌いが日本を滅ぼす (竹内薫)
- 日本の地震地図 (岡田義光)
- 心は何でできているのか (山鳥重)
- タニタ式カラダのひみつ(池田義雄)
- 家事の花道速攻編 (近藤典子)
- ひとさじで料亭の味！魔法の糀レシピ (浅利妙峰)
- 箱根駅伝 (生島淳)
- 宇宙から学ぶ (毛利衛)
- 恋する「小倉百人一首」 (阿刀田高)
- 鮫島の貌 (大沢在昌)
- 曾根崎心中 (角田光代)

- 開拓者たち (北川恵)
- 傷痕 (桜庭一樹)
- 共喰い (田中慎弥)
- 加藤清正虎の夢見し (津本陽)
- 或るろくでなしの死 (平山夢明)
- 下山の思想 (五木寛之)
- 真夜中の手紙 (宮本輝)
- 福島に生きる (玄侑宗久)
- 日本を捨てた男たち (水谷竹秀)

* おはなしの時間 *

幼児向きの絵本の読み聞かせ

日時／3月8日(木)、22日(木)
午後4時30分～5時

場所／旭市民会館



相談室

一人で悩まず相談してみませんか！

日々の暮らしの中で発生するさまざまな問題を解決するため、各種の無料相談を行っています。秘密は守られます。

相談名	内 容	期 日 ・ 時 間	場 所	問い合わせ
交通事故相談	示談、賠償額の算出、自賠責保険の請求の仕方など	3月 5日(月) 午前10時～午後3時 3月19日(月) 午前10時～午後3時 ※待ち時間解消のため、要事前連絡。	市役所会議室	市民生活課 ☎62-5396
市の法律相談	法律問題 ※市民を対象(同一内容での相談は1回限り)	3月12日(月) 午後1時30分～4時 ※予約制 2日(金)午前8時30分から受け付け 3月26日(月) 午後1時30分～4時 ※予約制 15日(木)午前8時30分から受け付け	海上支所 市役所会議室	市民生活課 ☎62-5396
人権・行政相談	人権問題、行政への要望、意見など	3月 6日(火) 午後1時30分～3時30分 3月13日(火) 午後1時30分～3時30分 3月27日(火) 午後1時30分～3時30分	市役所 飯岡支所 干潟支所	市民生活課 ☎62-5396
心配ごと相談	家庭内の心配事など	3月 7日(水) 午前10時～午後3時 3月14日(水) 午前10時～午後3時 3月21日(水) 午前10時～午後3時 3月28日(水) 午前10時～午後3時	飯岡福祉センター 青年の家2階 海上ふれあいサポートセンター 干潟支所	社会福祉協議会 飯岡本所 ☎57-5577 旭支所 ☎64-2570 海上支所 ☎55-5517 干潟支所 ☎68-1079
消費生活相談	物品購入時のトラブル、多重債務の相談など	月～金曜日 午前9時～午後4時	旭市消費生活センター(青年の家1階)	旭市消費生活センター ☎62-8019
こころの健康相談	精神障害(うつ病・アルコールなど)	3月26日(月) 午後1時30分～3時 ※予約制	旭市保健センター	海匠健康福祉センター ☎0479-22-0206 市社会福祉課 ☎62-5351
女性のための健康相談	月経不順・更年期障害・憂鬱・思春期の相談など	女性医師による面接相談 ※要電話予約 3月21日(水) 受け付け：午後1時30分～2時 電話相談(保健師など) 月～金曜日 午前9時～午後5時	八日市場地域保健センター	〈相談・予約専用〉 海匠健康福祉センター ☎0479-22-0235
子育て相談	子育てに関する質問や情報提供など	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	旭市子育て支援センター(南分館2階)	旭市子育て支援センター ☎62-7099
家庭児童相談	不登校・児童虐待・児童養育問題など	月～金曜日 午前9時～午後4時	家庭児童相談室(子育て支援課内)	家庭児童相談室 ☎62-5362
教育相談(学校)	学校教育についての悩みなど	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	海上支所2階	学校教育課 ☎55-5726
教育相談(家庭)	家庭教育・子育ての悩みなど	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	海上支所1階	生涯学習課 ☎55-5747
市民健康相談	生活習慣病をはじめ子どもからお年寄りまでの健康相談	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	(電話受付)	旭市保健センター ☎63-8766 飯岡保健センター ☎57-3113
歯科相談	診察、歯磨き指導など	3月 8日(木) 午前9時30分～ 受け付け：午前9時15分～10時30分	飯岡保健センター	飯岡保健センター ☎57-3113
福祉の総合相談	福祉(生活)全般にわたる相談	365日24時間 訪問相談も実施 夜間は電話転送にて対応	中核地域生活支援センター海匠ネットワーク	中核地域生活支援センター海匠ネットワーク ☎60-2578 FAX60-2579
介護相談	介護に関する相談	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	高齢者福祉課	旭市地域包括支援センター ☎62-5433
障害者差別相談	障害者差別に関する相談	月～金曜日 午前9時～午後5時	(電話受付)	海匠健康福祉センター ☎0479-22-0739
職業相談	職業相談、求人情報の提供など	月～金曜日 午前8時30分～午後5時	地域職業相談室(青年の家1階)	地域職業相談室 ☎62-5359
行政書士会	相続、遺言、許認可申請、農地転用など	3月17日(土) 午後1時～4時	青年の家2階	行政書士会東総支部・寺村 ☎63-7813
司法書士会	不動産登記、法律問題 多重債務の相談など	3月10日(土) 午後1時～5時 ※8日(木)までに電話予約	市民会館2階	司法書士栗田事務所 ☎72-1336
税理士会	税に関する相談	3月13日(火) 午前10時～正午 ※予約制(受け付けは平日の午後)	旭市商工会館1階	千葉県税理士会銚子支部 ☎0479-22-3901

健康インフォメーション

親と子の健康づくり 場所・岡飯岡保健センター(☎57-3113)

種 別	日 程	受付時間	対 象・内 容
健康 診 査	乳児健康診査	3月 5日(月) 3月21日(水) 4月13日(金) 4月26日(木)	12:50~13:10 平成23年11月 2日~14日生 平成23年11月15日~30日生 平成23年12月 1日~12日生 平成23年12月13日~29日生
	1歳6か月児健康診査	3月14日(水)	12:50~13:10 平成22年 8月15日~31日生
	2歳児歯科健康診査	3月 1日(木) 3月15日(木)	9:00~ 9:20 平成21年 8月29日~ 9月13日生 平成21年 9月14日~ 30日生
	3歳児健康診査	3月 2日(金) 3月16日(金)	12:50~13:10 平成20年 8月22日~ 9月 8日生 平成20年 9月 9日~30日生
	育児相談※旭市保健センター	3月13日(火)	9:00~10:00 乳幼児の発育確認、言葉、食事、歯などに関する相談
	ことばや発達の相談 ※予約制	3月12日(月) 3月23日(金)	9:30~14:30 就学前の子どもの言葉や発達に関する個別相談
相 談	歯科相談	3月 8日(木)	9:15~10:30 歯科医師による診察と歯科衛生士の歯磨き指導
	両親学級	3月 6日(火)第3回 3月22日(木)第4回	9:00~ 9:15 お産の経過と呼吸法、おもちゃ作りなど 沐浴実習・妊婦体操など
	子育て学級	3月 6日(火)第2回	9:15~ 9:30 平成23年11~12月生まれの第1子と希望者
	離乳食教室 ※申込制	3月 7日(水)	13:00~13:20 平成23年9~10月生 内容:離乳食の進め方(講話・調理実習)

乳幼児予防接種 場所・岡旭市保健センター(☎63-8766)

【集団接種】※日程は都合により変更になることがあります。

種 別	場 所・日 程		受付時間	対 象
	旭市保健センター	海上保健センター		
BCG	—	3月 1日(木) 3月15日(木)	13:15~13:45	生後3~6か月未満 ※期間が短いので最優先で受けましょう。
ポリオ	3月12日(月)	—	13:15~14:00	生後3~90か月(7歳半)未満
三種混合	3月 2日(金) 3月 8日(木) 3月16日(金)	—	13:15~14:00	生後3~90か月(7歳半)未満

【個別接種】 場所:各指定医療機関 ★麻しん(はしか)排除を目標に国を挙げて対策強化中!

種 別	対 象
MR(麻しん・風しん混合) ワクチン ※過去に麻しん・風しん にかかった人は相談 してください。	1期:生後12~24か月未満 2期:平成17年4月2日~18年4月1日生 3期:中学校1年生(平成10年4月2日~11年4月1日生) 4期:高校3年生相当年(平成5年4月2日~6年4月1日生) ※高校2年生相当年で、海外へ修学旅行などに行く場合は、接種対象になったので健康管理課へ申し込んでください。
日本脳炎	1期:生後36~90か月未満 ※3歳を迎えた翌月に通知します。 2期:9~13歳未満 ※特例対象者として平成17~21年度の間に接種ができなかった、平成7年6月1日~19年4月1日生まれの人が、定期接種として受けることができるようになりました。希望する人は、健康管理課へ申し込んでください。

※母子健康手帳を忘れた場合は接種できません。また転入者などで通知の届かない人は、連絡してください。

任意予防ワクチン接種費用を助成します

①子宮頸がん予防ワクチン ※中学校1年生には昨年4月に通知しました。

対象:中学校1~3年生の女子(本年度に限り高校1年生相当年を含む)

助成額:1回当たり15,000円(上限)

②小児用肺炎球菌ワクチン ※生後2か月を迎える子どもには順次通知します。

対象:生後2か月以上5歳未満 助成額:1回当たり10,000円(上限)

③ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン ※生後2か月を迎える子どもには順次通知します。

対象:生後2か月以上5歳未満 助成額:1回当たり7,500円(上限)

各接種とも、助成期間は平成24年3月31日(土)まで

岡健康管理課予防班(☎63-8766)

献血に協力を!



期 日	場 所・受付時間
3月 8日(木)	海上保健センター 13:00~16:00
3月13日(火)	飯岡保健センター 10:00~11:45 13:00~15:45
3月29日(木)	干潟支所 14:00~16:00

※献血カードを持っている人は持参してください。

岡健康管理課庶務企画班(☎63-8766)

お知らせ

Information

請求期限は4月2日(月)

「第九回戦没者等の遺族に対する特別弔慰金」

戦没者などの死亡当時の遺族で、平成17年4月1日～21年3月31日までの間に、公務扶助料、遺族年金などを受けていた人が亡くなるなどし、平成21年4月1日に、公務扶助料、遺族年金などを受ける人がいない場合に、特別弔慰金が支給されます。

対象となる遺族の人で、まだ請求していない人は、請求してください。

給付内容／額面24万円、6年償還の記名国債

㊟社会福祉課社会班(☎62-5317)

被災体験から被害の実態に迫る

「旭市の津波被害を学ぶ会」

日時／3月18日(日) 午後1時50分～

場所／いいおかユートピアセンター

内容／講演「津波被災の体験」、「津波被災者支援と語り継ぎ」、質疑応答

費用／無料

㊟東総歴史教育者協議会・野口(☎0478-86-3227) ※午前8～10時のみ

「世界自閉症啓発デー in ちば～みんな大切な仲間です～」

毎年4月2日は、国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。自閉症を含む発達障害への理解を深めませんか。

日時／4月1日(日) 午前11時～午後5時

場所／きぼーる(千葉市)

内容／自閉症者作品展示、支援グッズ紹介、ミニコンサート、相談コーナーなど

費用／無料

㊟千葉県発達障害者支援センター(☎043-227-8557)

コイの病気に注意！

コイ特有の病気のコイヘルペスウイルス病は、人には感染しませんが、コイに大きな被害をもたらす病気です。病気の広がりを防ぐため、川などで捕ったコイや飼育中のコイをほかの川などに放すことはやめましょう。

また川などで、コイが大量に死んでいるのを見つけたときは、連絡してください。

㊟県漁業資源課(☎043-223-3037)

犬の散歩はマナーを守って！

犬の散歩をする人の多い、海岸付近や公園などの公共施設、空き地などに犬のふんが放置され、住民や施設利用者の迷惑となっています。犬の散歩時のふんは、飼い主が責任を持って持ち帰り、後始末をしましょう。

また犬の放し飼いは、周りの人の迷惑となります。放し飼いは絶対にやめ、散歩時にも首輪が外れないよう、きちんとつないで散歩をさせましょう。

㊟環境課環境美化班(☎62-5329)



市税の夜間納税窓口

日時／3月12日(月) 午後8時まで

場所／税務課

㊟税務課収税班(☎62-5322)



+ 健康 × モ +

健やかな子育てを目指して

待望の子どもを授かり、穏やかで親子一緒に楽しい生活が始まる――。しかし、すぐに“こんなはずではなかった”と、育児の大変さに気付かされます。「子どもの泣き声や機嫌の悪さが収まらず悩む」「時間をかけて作った離乳食を吐き出され、どうしたらいいか途方に暮れてしまう」など、多くの親御さんがこのような経験をしていると思います。

子育ては、思うようにはいかないことがたくさんあります。子どもにとって大事な自己主張が、実は親にとっては対応が難しいこともあります。どのような時期でも、親子のコミュニケーションを十分に取り、子どもの様子や変化に気付けることが大事だと思います。

親に心の余裕がないと、思うようにはいかない子どもの様子にいら立ちを感じる場合があります。またストレス

から、目の前の子どもに当たってしまうこともあるかもしれません。それでたいていしまったり、傷つくような言葉を浴びせたり、子どもに善かれと思い無理強いをして、健やかな成長を妨げてしまうことになるとう虐待になります。暴力(体罰)は、良い関係を生みません。暴力でのつながりをつくるだけです。

そうならないためにも、子育てで困ったときに相談できる人や場所を探しておきましょう。子育ては人手が必要です。家族以外の人とも関わり、困ったことを話して、風通しを良くしていきましょう。夫婦仲も重要です。家族の基本は夫婦からです。夫婦仲が良いと健やかな子どもに育ちます。また自身が親からどう育てられてきたかも振り返ってください。大事にされてきたことを思い出し、それを子どもにも伝えていきましょう。

[県銚子児童相談所]

私たちもサポートします！ 悩まず相談を

●市健康管理課支援班(☎57-3113・健康面での相談)

●市児童家庭相談室(☎62-5362・子育て相談全般)

●県銚子児童相談所(☎0479-23-0076)

お知らせ

Information

4月1日(日)から運営を再開 あさひパークゴルフ場

営業時間／●3、4、9、10月…午前9時～午後5時 ●5～8月…午前8時～午後6時 ●1、2、11、12月…午前9時～午後4時 ※最終スタート時間は、営業終了時間の1時間前です。
休日／毎月第2・4月曜日、年末年始(12月31日・1月1日)
※4月1日は再オープンを記念し、無料開放します。1人1ラウンド(18ホール)まで。

園都市整備課街路公園班(☎62-5354)

「あさひ中央橋」に橋名が決定！ 3月26日(月)に開通予定です

旭中央病院アクセス道の県道銚子旭線から国道126号線の区間に架かる、新しい橋の名前を募集しました。275点の応募の中から、厳正な審査の結果「あさひ中央橋」に決定しました。

園建設課管理班(☎57-1191)



あさひ中央橋

元全日本ドリームチームと対戦 「はつらつまママさんバレーボールin Asahi」

日時／3月25日(日) 開場：午前9時 開会：午後0時20分

場所／総合体育館メインアリーナ

内容／オリンピックメダリスト・元全日本メンバーと市内ママさんバレーボールチームの対戦、抽選会など

※午前9時30分からバレーボール教室あり(見学自由)。抽選会は、午後0時30分までに入場の先着500人が対象。

出場選手／河西昌枝さん、川合俊一さん、吉原知子さん、落合真理さんほか

入場料／無料

園体育振興課体育振興班(☎64-1132)

新たなスタートに期待

市長 明智忠直



2月5日、第23回旭市飯岡しおさいマラソン大会が開催されました。昨年の大津波で、最も被害が大きかった海辺のコースは、飯岡の海岸線のコースに、矢指、富浦地域を加えた新しいコースへと変更し、計画から実施まで、さまざまな課題をクリアして大会を迎えました。当日は、素晴らしい天候に恵まれ、沿道には区長さんをはじめ地域・役員・ボランティアの皆さんの情熱があふれ、そして一刻も早く震災から立ち上がろうという市民みんなの思いも加わり、最高に盛り上がった大会になりました。

開会式には森田県知事にも出席していただき「被災地旭にとって、この大会が復興の大きな力になってもらいたい」とのあいさつに、大いに勇気づけられました。

ユートピアセンターでの出店やおはやし、沿道でのイチゴ、ミニトマト、キュウリなどのサービス。地域みんなの協力があり、北は北海道から南は九州福岡まで、過去最多の3,461人の皆さんには、大いに大会

を満喫していただけたものと思います。中でも、1,100人を超えるハーフマラソンのスタートは圧巻であり、一人一人の顔も真剣そのもので、これからの旭のスタートをほうふつさせるものでありました。

走り終えて、海辺でランニングや深呼吸をする人の姿を眺め「この大会は、もっともっと人気が出る」と、感じたものでした。

そしてもう一つ新たなスタートが切られました。沖縄県中城村との姉妹都市の締結であります。旧飯岡町時代から友好交流町村として「絆」「交流」を深めてきた関係であり、今回の災害にも、いち早くたくさんの義援金や応援物資、子どもたちの励ましの手紙などを頂きました。今後はさらに互いの交流を深めて、人、産業、経済間のつながり、両市村の発展に尽くしていこうと誓い合った次第です。

新たなまちづくりをスタートした本市にとって、今後に大きな期待を持たせてくれた2つの出来事でありました。

学びの成果を発表します 「旭・学び助成金(旭3S)活動報告会」

「旭・学び助成金(旭3S)」では、市内の小学生から高校生までが社会的貢献を意図した活動を積極的に展開するために、その資金的裏付けとなる助成金を提供し、子どもたちの学びを支援してきました。活動報告会では、今年度助成を受けた団体が「学びの成果」を発表します。

日時／3月10日(土) 午後1時30分～4時(受け付け：午後1時15分～)

場所／東総文化会館小ホール

発表者／中央小、干潟小、海上中、旭二中

入場料／無料

園旭・学び助成金(旭3S)事務局(☎62-0049・旭二中内)

水道工事の申し込みは、 旭市指定給水装置工事事業者へ！

給水装置の新設・改造・修理などの水道工事は、指定給水装置工事事業者へ申し込んでください。指定給水装置工事事業者以外で工事を行うと違反工事となり、工事をやり直すことになったり、水を止めたりする場合もあります。

希望する工事を行うことができる事業者であることを確認し、複数社の見積書を取るなど納得のできる事業者を選びましょう。指定給水装置工事事業者の一覧表は、旭市水道お客様センターと水道課窓口にあるほか、市ホームページからもダウンロードできます。

園水道課工務班(☎63-8882)

i 暮らしのインフォメーション

募集

Recruitment

あなたの意見をまちづくりに 「まちづくりサポーター」

市の政策や事業計画の策定に当たり、皆さんからの意見を反映させるため「まちづくりサポーター制度」を実施しています。まちづくりに関する情報を共有し、気軽に意見交換が行えます。

応募資格／18歳以上で、市内在住または在勤・在学の人

定員／50人

期間／平成25年3月31日まで

内容／市からの照会などに対する回答や、まちづくりに関する自由意見・感想をもらい意見交換を行います。

情報の送受信方法／電子メールまたはファクス

謝礼／月額500円(予定)

申し込み方法／住所、氏名(フリガナ)、年齢、性別、職業(勤務先)、電話番号、メールアドレスまたはファクス番号を書いて、電子メール、ファクスで申し込んでください。

☎ 秘書広報課広報広聴班 (☎62-8070、FAX63-4946) **✉** koho@city.sahi.lg.jp

都市住民との交流を図りませんか？ 体験交流スタッフ

旭市都市農漁村交流協議会では、都市住民との体験交流を通じて、市の農産物や豊かな自然を、一緒にPRしてくれる人を募集しています。

対象／市内在住・在勤の人

内容／文化財となっている大原幽学ゆかりの水田での稲作体験、大原幽学が推奨した換子教育を手本とした少年少女の宿泊体験などの手伝い

申し込み方法／農水産課にある申し込み用紙に必要事項を記入し、持参、郵送、またはファクスで申し込んでください。

申込期限／3月21日(水)

☎ 〒289-0592 旭市南堀之内10 旭市都市農漁村交流協議会事務局 (☎68-1174、FAX68-1198・農水産課農業推進班内)

旭市育英資金育英生

募集人数／高校生8人、大学生など(大学、高専、専修、各種学校など)8人

給付条件／●特に優れた資質があり、経済的な理由により修学困難な人で、学校長または所属長の推薦があり、身元確実な保証人がいること ●家族の年収が審査基準の収入基準額以下であること

給付予定額(月額)／●高校生…9,900円 ●大学生など…14,400円

募集期間／3月1日(木)～30日(金)

申し込み方法／学校教育課(海上支所2階)にある申請書で申し込んでください。

☎ 学校教育課学務班 (☎55-5724)

臨時職員(保健師・管理栄養士または栄養士)

〈保健師〉

●主に母子保健事業に従事…1人

●主に成人保健事業に従事…1人

〈管理栄養士または栄養士〉

●主に栄養指導に従事…1人

〈共通事項〉

雇用期間／4月1日～平成25年3月31日

申し込み方法／3月23日(金)までに、履歴書(写真添付)、保健師または栄養士免許の写しを提出してください。

☎ 健康管理課庶務企画班 (☎63-8766・旭市保健センター内)

「がんばろう！千葉」キャンペーン ちば盛り上げ隊

千葉を盛り上げ、千葉から日本を元気にするため「ちば盛り上げ隊」を発足しました。

申し込み方法／申込用紙に必要事項を記入し、郵送で申し込んでください。申込用紙は「がんばろう！千葉」ホームページ(<http://www.pref.chiba.lg.jp/kouhou/miryoku/ganbaro/>)からダウンロードできます。

☎ 〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1 県総合企画部報道広報課「がんばろう！千葉」担当 (☎043-223-2242)

物作りの楽しさに触れる 旭少年少女発明クラブ第30期生

活動日時／毎週日曜日 午前9時～11時30分 ※第4日曜日を除く。

活動場所／旭少年少女発明クラブ工作室(青年の家体育館南側)

対象／小学校3年生～中学校2年生

定員／35人

開始式／4月15日(日)

内容／科学工作教室(基礎工作、アイデア工作、応用工作)

費用／年額6,000円(保険料、教材費)

申込期限／3月30日(金)

☎ 青年の家 (☎63-1525)

催し物

Events

健康な生活を送るために 「旭中央病院市民健康講座」

日時／3月10日(土) 午後2時～4時

場所／旭中央病院本館3階しおさいホール

内容／講演「患者様参加でさらに進める医療安全」(医療安全管理推進室：安井美和子師長)、「肥満と消化器病のかわりについて」(内科：石橋啓如医師)

費用／無料

☎ 旭中央病院 (☎63-8111・代表)

航空部品などを格安で販売 「航空ジャンク市」

日時／3月10日(土)、11日(日) 午前10時～午後5時 ※11日は午後4時まで。

場所／航空科学博物館1階多目的ホール

費用／入館料のみ

☎ 航空科学博物館 (☎78-0557)

春を満喫

「里山でのタケノコ収穫体験」

日時／4月21日(土) 午前10時～

場所／東庄県民の森

内容／春の里山観察、タケノコ収穫

定員／20人

費用／500円(資料代、保険料など)

☎ 東庄県民の森管理事務所 (☎0478-87-0393)



ふるさとの**自然**

(24)

町中でたくましく生きるハクセキレイ

水辺でときどき見掛ける白い小鳥。長い尾を振りながら歩くハクセキレイです。

○長い尾で石たたき

ハクセキレイはスズメよりやや大きく、スマートな体つきで、頭から背中、尾にかけて黒く、顔と腹は白い色をしており、全体的に白っぽく見える鳥です。川や池などの水辺や海辺、畑や田んぼなど、いろいろな場所に住んでいるので市内でもよく見掛けます。長い尾を上下に振りながら歩くところから「石たたき」という別名もあります。

○冬鳥から留鳥に

ハクセキレイは、この辺りでは冬の間だけ見られる冬鳥でした。ところが今から40年ほど前、夏も残って海岸の岩場で子育てをするハクセキレイが現れました。その後住む場所を内陸に広げていき、今では学校などの大きな建物の隙間などにも巣を作るようになり、一年中見られる留鳥に変わりました。

○住みやすいのは人の近く

ハクセキレイは虫やクモのほかに、パンくずなどのごみも食べます。町中は雑食性のハクセキレイにとって、食べ物が多く巣作りの場所もある住みやすいところ。夜は繁華街の道路沿いの植え込み、大きな橋の下などに集まって集団で眠ります。人間の近くなら、フクロウなどの恐ろしい敵が近づきにくくて安全なことを知っているのです。

○そのほかのセキレイの仲間も

市内ではハクセキレイによく似たセグロセキレイも見られます。黒い顔に真っ白な眉があるのが特徴です。以前はめったに見られない鳥でしたが、最近はときどき見掛けるようになりました。(齊藤敏一)

イキイキ

あさひっ子



ゆうと
祐翔ちゃん

平成22年5月18日生

両親＝家入浩一さん

理加さん(井戸野)

「すべり台1人でできるようになったよ！公園で遊ぶの大好き」

よしと
美翔ちゃん

平成22年1月19日生

両親＝椎名宏幸さん

瑞穂さん(井戸野)

「ぼくはお父さんと同じ誕生日だよ♡外遊び大好き☆」



あゆむ
歩ちゃん(左)

平成20年6月29日生

りお
理緒ちゃん(中)

平成21年9月7日生

みつ
充稀ちゃん(右)

平成23年3月18日生

両親＝高橋一将さん

味和さん(三川)



「仲良し3きょうだい！真ん中は女の子だよ」

“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。

対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課、各支所にあります。

編集こぼれ話

「思い出したくない記憶」――。

広報ではこれまで、被災した人たちの心情を察し、震災の写真などの公表を控えてきました。しかし「この震災から学んだ教訓を、風化させてはいけない」という思いから、震災から1年を機に、この特集を組むことを決めました。

悲しい気持ちを抑え、親切に取材に応じてくれた皆さんには心から感謝しています。復興には、まだまだ時間がかかるかも知れませんが、皆さんの、このつらい記憶を力に変え、一日も早く明るい未来へと歩んでいけることを願っています。(末)

くらしのカレンダー

11日(日)	東日本大震災一周年千葉県・旭市合同追悼式(午後2時30分～ いいおかユートピアセンター)
14日(水)	市内中学校卒業式(旭二中は17日(土)に実施)
19日(月)	旭地域、干潟地域小学校卒業式(中央小は21日(水)に実施)
20日(火)	春分の日 熊野神社の神楽
21日(水)	海上地域、飯岡地域小学校卒業式
27日(火)	鎌数伊勢大神宮の神楽(～28日(水))